

伊豆沼・内沼

サングチュアセンターニュース

Vol.59

5年ぶりの伊豆沼堤防での野火の様子

保全活動

伊豆沼第2, 第3工区堤防雑草の一齐焼却と清掃

平成27年3月28日に伊豆沼第2, 第3工区で、伊豆沼漁業協同組合・地元土地改良区及び登米・栗原両市との共催により野火(堤防の焼却)を実施しました。焼却後、ゴミの回収を行ったところ、合計30kgのゴミを回収しました。空き缶・ビン類が多く、中にはタイヤ3本など粗大ゴミもありました。

これによって、景観が良くなり健全なヨシが育成します。



焼却後の二工区堤防



焼却後のゴミの回収作業

春の外来魚駆除活動が始まりました！！



今年もブラックバスやブルーギルなどの外来魚駆除が始まりました。電気ショッカーボートや人工産卵床などさまざまな駆除活動を行っています。

【電気ショッカーボート】



電気を流して一時的にしびれさせ、外来魚だけを駆除する方法です。

【侵入防止フェンス設置】



産卵期前にオオクチバスが営巣する可能性のある場所を網などで囲い、オオクチバスの侵入を防いで産卵させない方法です。

※駆除のため、釣りをされている場所の近くで作業を行う場合がございます。安全には十分に配慮して実施しますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

栗原市サンクチュアリセンターつきだて館が入館者20万人達成！！

栗原市サンクチュアリセンターつきだて館(昆虫館)の入館者数が、平成27年3月21日に20万人に達しました。記念すべき20万人目の入館者は、宮城県遠田群美里町からご家族でお出でになった佐藤爽太くん3歳でした。今後とも皆様に愛される施設になるよう、より一層施設の充実を図ってまいりますので、これからも昆虫館をよろしくお願い致します。

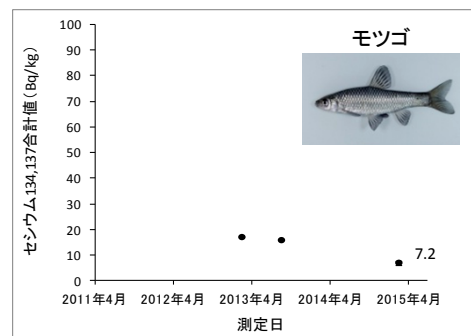
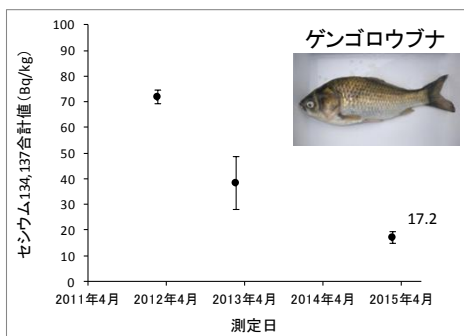
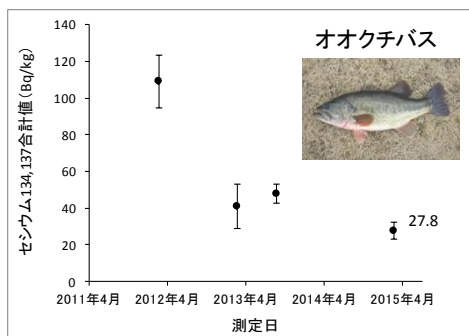


花束を受け取る爽太くん

調査・研究

魚類放射能測定結果

福島第一原発事故後に沼で捕獲した魚類等の放射性物質濃度をモニタリングしています。肉食性のオオクチバスは、原発事故前には1ベクレル/kg未満の濃度(セシウム134,137合計値)でしたが、原発事故後の2011年には、100ベクレル/kg以上になりました。2011年以降には濃度が徐々に低下し、2015年3月には27.8ベクレル/kg(N=5)でした。オオクチバス以外の魚類にも減少傾向が見られ、2015年3月時点では、ゲンゴロウブナで17.2ベクレル/kg(N=3)、モツゴで7.2ベクレル/kg(N=3)でした。



お知らせ

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団のシンボルマークを募集しています！

伊豆沼・内沼のラムサール条約湿地の登録30周年と当財団の公益財団法人への移行を機に、『(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団』のシンボルマークを募集しています。

応募期間:

平成27年4月1日(水)～5月11日(月)必着

詳しくは、ホームページまたは財団にお問い合わせ下さい。

〈事務局〉

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp
ホームページ: http://izunuma.org

伊豆沼・内沼生き物図鑑

モツゴ *Pseudorasbora parva*



沼の岸で泳ぐモツゴの群れ

沼の岸辺で「パチパチパチパチ」という音が聞こえたら、それはモツゴが水面のエサをついばんでいる音です。モツゴは体長5～10cmのコイ科の小魚で、沼では昔から唐揚げなどにして食べられてきました。ブラックバスが減り、沼の岸辺で群れになって泳いでいる姿を見ることができるようになりました。